み　ど　し

平成癸巳歳旦
2013年

明石春浦先生

壽（ことぶき）　命の長いこと。長寿。めでたいこと。

明けましておめでとうございます。

皆様良いお年をお迎えのことと思います。

昨年の夏は猛暑に悩まされ又年末には寒暖の差が殊の外多くて体調を保つのに大変でした。

今年は四十回記念の玄和書道会選抜春墨展を銀座画廊・美術館で開催いたします。

昭和四十九年の四月、念願の銀座で第一回展を画廊ミミという小さな地下一階で開きました小品展でしたが感動した事が想い出されます。画廊ミミを振り出しに、中央美術画廊・日産アートサロン・松坂屋カトレアサロン・東京セントラルアネックスそして銀座画廊にと移ってきました。今年で四十回展ですがこのように長く続けられたのも皆様のお陰と感謝いたしております。会員の方々の秀作を楽しみにしております。

玄和誌も皆様からの暖かいご支援により今日があると感謝いたしております。スタッフ一同皆様のお役に立てるよう頑張っております。

今後ともご支援・ご愛読賜わりますよう、よろしくお願いいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

明石　昌子

明けましておめでとうございます。

昨年一月の玄和書道会総会にて会長職を任され、その緊張を上回るプレッシャーたるものは想像以上で、自分の気持ちとは裏腹に、会長として何も出来ずに過ぎた一年のように感じられます。

そんな中、昨年は玄和書道会から、毎日書道展で『会員賞』受賞者を出すことが出来ました。≪会員賞選考委員≫としての選考の場に臨んだ小生は、本当に鼻が高かったのですが、これはご本人の努力は勿論のこと、会員全員のこれまでの日頃の精進があったからこそで、玄和書道会で勝ち取ったものと思わずにはいられませんでした。どうか会員の皆様には、この日頃の精進を忘れずに頂きたいと存じます。

さて、今年は【春墨展】が四十回という記念を迎える年であります。前回の記念展である三十回展からどこまで玄和書道会の成長が見せられるか、その第一歩が出品点数かと思いますが、現在既に三十回展を上回る百三十点の出品予定となり、ここに各支部のご指導に当たられている先生方を始め、会員の皆様の意気込みを感ずることが出来、今まで以上の元気を頂戴しました。

昨年十月には玄和書道会として始めて【春墨展】に向けての錬成会を執り行いましたが、参加者全員が同じ目標を持って臨む二泊での錬成会は、参加者同士の刺激が大いに感じられ、大成功と言って良かったと思います。

次は作品内容です。他会派の先生方・ジャーナリストの先生方・外部来賓の方々に〝上手いけどどれも同じ作品に見える…〟と言われないようにしたいものです。〝おっ！玄和は変わってきたな、個々の日頃の勉強の跡がある…〟となりたいものです。我流ではいけない。しからば個々が古典の勉強を如何にするかです。今からでも決して遅くありません。お手本を頂戴している方は、そのお手本のマネ事に終わらず、そこにホンの少しでも個人の好む古典の跡を残すことで、本当の社中展開催の意味があると思います。

会長　西　墨濤

小生現在毎日書道会の〈企画委員〉をさせて頂いておりますが、ここ数年、玄和書道会は本当に外部から注目されております。どうか会員の皆様には、今一度玄和書道会の会員であることの自負を再認識して頂き、志半ばで目標を達成出来なかった春浦先生の本当に望んでいた『春墨展』とは何だったのかを考え、更には前会長叶先生の言われていた「常に良い作品を書く」という意思も含め、我々はこのことに真正面から取り組んで行きたいと願って止みません。

日頃の努力を怠らない！一生懸命は必ず伝わる筈です！

今年も共に頑張りましょう！

玄和書道会会長　西　墨濤

明けましておめでとうございます。

今年一年が会員の皆様にとって健やかな一年になるようお祈り申し上げます。

〝一年の計は元旦にあり！〟

今年一年何を目標に、どのような年にしようかと考えていることと思います。書に限らず自分が生きていく上で目標を持つという事は大切なことではないでしょうか。多くの制約の中で日々過している私達ではありますが、その中で自分の趣味や好きなことに時間を費やし、楽しむことが出来るというのはとても幸せで、貴重なことだと思います。如何に時間を遣り繰りし、有効に使い、自分のしたいこと、為すべきことを実現できるかだと思います。目先のことに囚われず、長い目で一年を振り返った時、その目標の半分でも実現出来たら上出来ではないでしょうか。周りに流されず自分自身をしっかり持って、何事にも取り組み、着実に一歩一歩進めたらと思います。

玄和書道会理事長　三浦　士岳

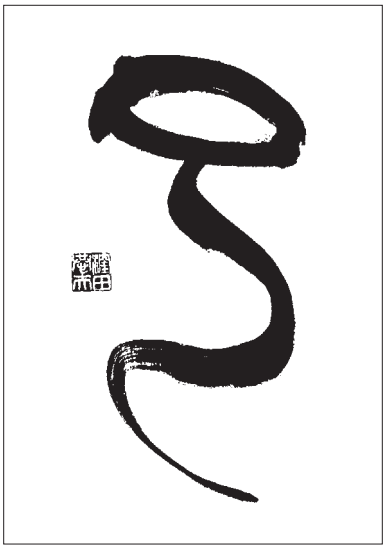
理事長　三浦士岳

常務理事　雨宮春聲

謹

常務理事　明石幸子

賀



常務理事　窪田華岳

年

常務理事　森戸春濤

新

常務理事　菅井松雲

条幅部自由参考

1月25日正午必着

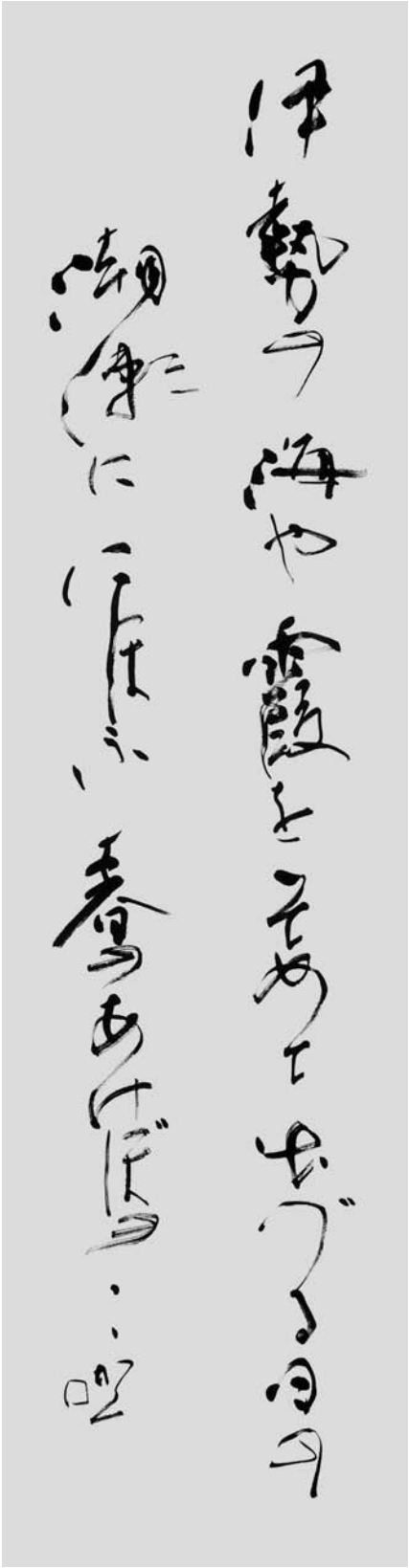
明石春浦先生書

林静蕙風熏（李　嶠）　折からの春の雨が麥隴を潤していることであろう。　麥隴…麦畑

西墨濤先生書

春風澹蕩使思多　天色淨緑氣妍和　桃含紅萼蘭紫芽　朝日灼鑠發園花（古詩源）

1月25日正午必着



伊勢の海や 霞をそめて 出づる日の 潮瀬ににほふ 春のあけぼの（清水 濱臣）

明石幸子書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

麗日發二光華一　（孟浩然）

野寺分二晴樹一　山亭過二晚霞一
春深無二客到一　一路落二松花一　（施閏章）

次二北固山下一　（王　湾）

客路青山外　行舟緑水前
潮平兩岸闊　風正一帆懸
海日生二殘夜一　江春入二舊年一
郷書何處達　歸雁洛陽邊

麗日光華を発す

野寺晴樹分ち、山亭晩霞過ぐ。
春深くして客の到る無く、一路松花落つ。

北固山の下に次る　王　湾

客路　青山の外　行舟　緑水の前
潮平らかにして両岸闊く　風正しくして　一帆懸る
海日　残夜に生じ　江春　旧年に入る
郷書　何れの処にか達せん　帰雁　洛陽の辺

茂りあひて かたみに木々が 落したる 木洩日匂ひ けふは元日　（若山　牧水）

うららかな春の日に、すべてのものが光り輝やいている。野寺には木々が日にくっきりと映え、山亭には夕暮れのもやがただよう。このあたり、春色深く、たずねる人もなく、路行けば松花が静かに落ちるのみである。松花は松黄ともいう。

半紙部規定課題Ａ

1月25日正午必着

明石春浦先生書

※作品には必ず落款を入れてください。

※課題Ａ（楷書）と課題Ｂ（四体の中より一書体選択）の二点を出品のこと。

半紙部規定課題Ｂ

1月25日正午必着

行書

草書

隷書

行草書

明石春浦先生書

西郊蘭若　羊士諤

雲天宜二北戸一
塔廟似二西方一
林下僧無レ事
江清日正長
石泉盈レ掬冷
山實滿レ枝香
寂寞傳二心印一
無言亦已忘

西郊の蘭若　羊士諤

雲天　北戸に宜しく
塔廟　西方に似たり
林下　僧　事無く
江清くして　日正に長し
石泉　掬に盈ちて冷たく
山実　枝に満ちて香し
寂寞として　心印を伝う
無言　亦た已に忘る

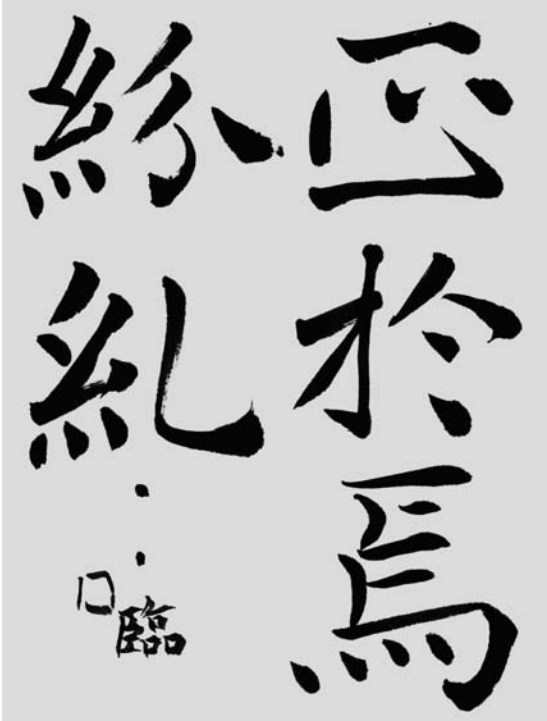
北向きの戸を開けば、雲たなびく空のまことによろしき景色　堂塔のたたずまいは、まるで西方浄土のよう
林の下に、僧たちは何の俗事もなく　江は清く澄んで、日は今や暮れなずむころ
岩石の間にわき出る泉、手にいっぱいにすくえばひんやりと冷たく　山中の木々は、枝にいっぱいに実をつけてかぐわしい
ひっそりとしずかに、仏心のしるしを伝え、ことば無しということすらをも、もはや忘れてしまった

条幅部半紙部臨書課題

生於十地、然而真教難仰、莫能一其指帰、曲学易遵、邪正於焉紛糺、所以

（群）生を十地に（導く。）然り而して真教は仰ぎ難く、能く其の指帰を一にする莫し、曲学は遵い易く、邪正焉に於いて紛糺す。所以に

条幅部半紙部臨書参考



（邪）正焉に於いて紛糺す。

（群）生を十地に（導く。）然り而して真教は仰ぎ難く、能く其の（指帰を）一にする莫し、

唐 褚遂良 雁塔聖教序

浙江省の出身で、河南公に封ぜられたことから、褚河南の称もある。欧陽詢・虞世南と合わせて「初唐の三大家」といわれるが、彼らより四十年程、後輩となる。彼は若い時から書家として、また鑑識家として優秀だったので、重臣の魏徴の推薦により四十一歳の時から太宗に仕えた。

彼は書家として優れていたばかりでなく、人格が非常に高潔・硬骨の人であった。太宗の死後、高宗に仕えたが、則天武后が皇后になろうとするのを反対した為に左遷され、晩年は不遇の中、愛州（今のベトナム）で死んだ。

彼の書は、遠く王羲之を範とし、虞世南・欧陽詢を師としたが、のちに一派を成した。結体は閑雅悠遠、用筆は清勁で変化の妙を極め、韻致に富んでいる。

この雁塔聖教序は、五十八歳の書で、彼の代表的傑作である。玄奘法師の功績に対して太宗・高宗がそれぞれ序文と序記を作ったものである。石質が良く現在もほぼ完全な状態で残っている。結体は彼独得の豊かな抱擁力と広がりを持ち、用筆は弾力性に富み、変化の妙を極めている。

（春廣）

1月25日正午必着

教育部毛筆

雨宮春聲先生書

歴（れき）　訪（ほう）　中学一年

菅井松雲先生書

宝（たから）　船（ぶね）　中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

藤井良泰先生書

汽笛（きてき）　小学五年

森戸春濤書

信念（しんねん）　小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着

細谷春誠先生書

正（しょう）　月（がつ）　小学三年

榎戸春龍先生書

外（がい）　国（こく）　小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

明石幸子書

おと　小学一年・幼年

藤田幸春先生書

多（おお）い　小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

元日の朝はなにもか
もが新しく見える

小学五年

元日の朝をむかえ新た
な希望を胸にいだく

小学六年

昇る朝日に照らされて
かがやく夜明けの海

中　学

草木はしげり栄えて天
地はいずこも春となった

一般（級位）

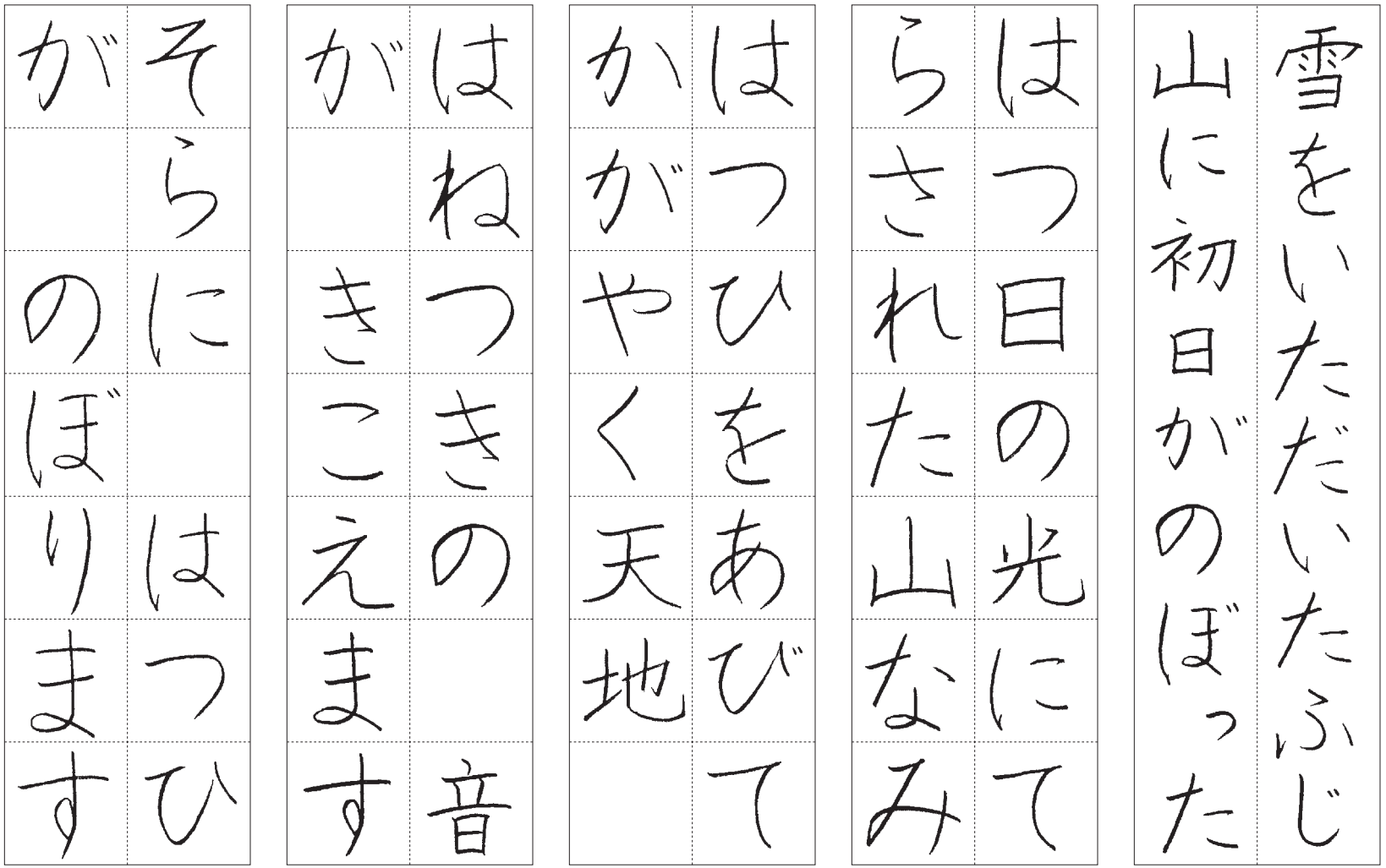
新玉の年の光も見ゆるかな
朝日にほふ不二のしら雪

新玉の　年の光も　見ゆるかな　朝日ににほふ　不二のしら雪（西　舛子）

明石幸子書

一般（段位）

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



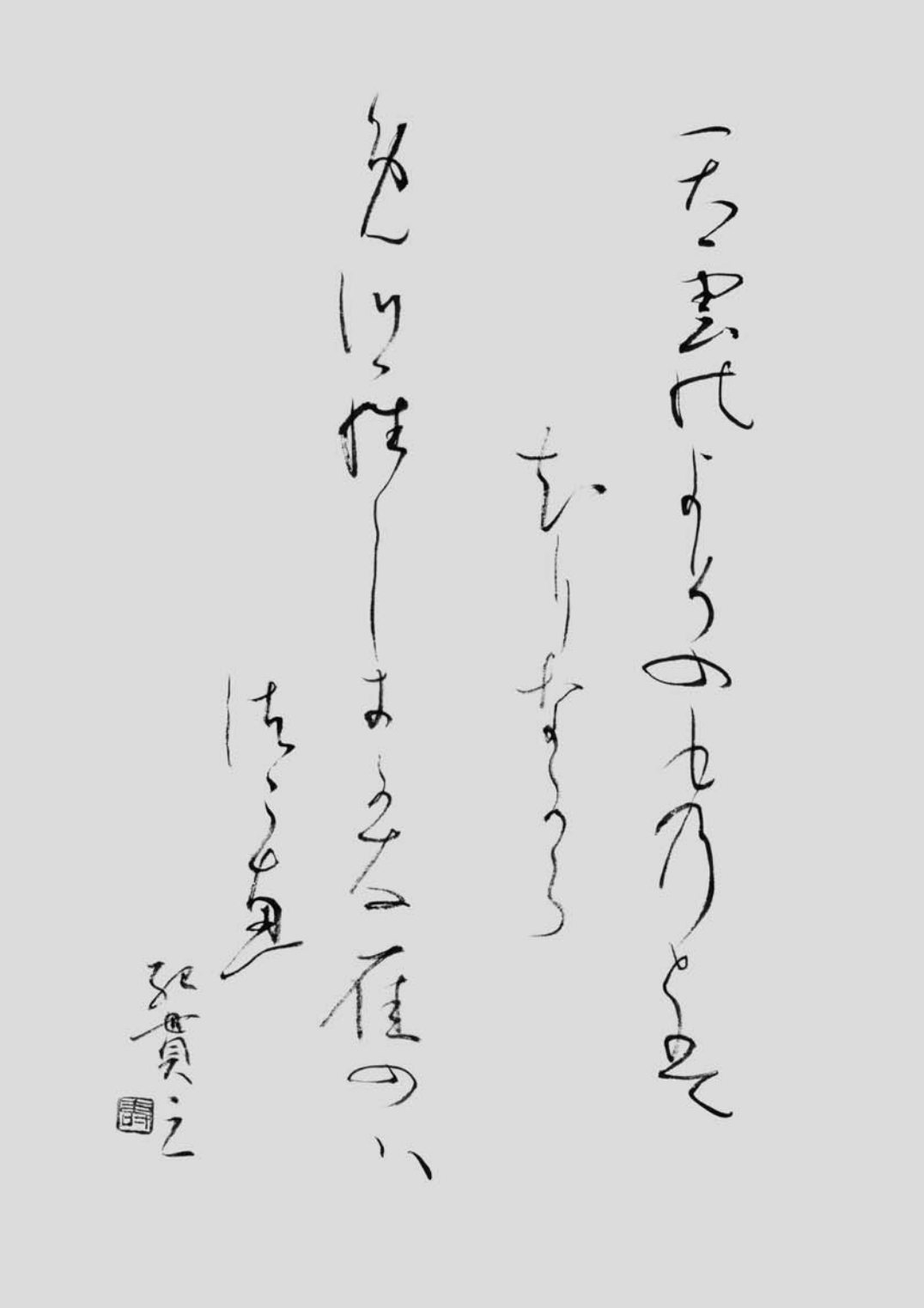
明石幸子書

幼　年　　小学一年　　小学二年　　小学三年　　小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

1月25日正午必着



天雲(あまぐも)の　よそのものとは　知(し)りながら　めづらしきかな　雁(かり)のはつこゑ

能曽乃盤　知可免川羅支可奈　雁八徒恵

（紀　貫之）

岩本景楓先生書